

子どもたちが将来にわたって暮らしやすい地球になりますように

年々暑さが増し、とても暑い夏でした。8月後半になって少し暑さが和らいで来ましたね。

昨年の8月後半は日本列島が梅雨時のように前線が停滞し、大雨となり各地で被害が出ました。今年も各地で大雨による災害が起こり、特に東北や北陸などで豪雨による被害が出ています。被災された皆さんには少しでも早く回復されることを祈っています。地球環境を改善し、未来を生きる子どもたちにちゃんとした社会、地球をつくらなくてはと強く思っています。



さて、ののかぜ保育園では、昨年度育てたひまわりからたくさんの種が取れ、今年園庭のあちこちに蒔いたら、たくさんのひまわりが咲きました。今年度もたくさんのひまわりの種が取れそうです。大事に種を取って、また来年たくさんのひまわりを咲かせたいと思います。ところで、昨年は給食室前のフリースペースの前に、アサガオで緑のカーテンを作りましたが、今年度はゴーヤで緑のカーテンを作りました。ゴーヤは少ししか収穫できませんでしたが、幼児クラスの子どもたちがとって、給食室でゴーヤチップスにしてもらいました。結構苦かったけど、食べる子はよく食べました。苦手な子は全然受け付けませんでしたけどね。

核兵器のない平和な世界の実現を

8月は原爆投下から77年を迎え、広島・長崎で原爆犠牲者慰霊記念式典が行われました。式典では「核兵器をこの地上からなくし、いつまでも続く平和な社会の確立をしよう」と呼びかけられました。

今年1月、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の核保有5か国首脳は「核戦争に勝者はいない。決して戦ってはならない」という共同声明を世界に発信しました。しかし、その翌月にロシアはウクライナに侵攻。核兵器による威嚇を行いました。

NPT核拡散条約再検討会議は最終段階で決裂し、世界はますます危機的になっています。一方で、核兵器廃絶が多数の国の声にもなっています。長崎市長は「日本政府と国会議員に訴えます。『戦争をしない』と決議した憲法を持つ国として、国際社会の中で、平時からの平和外交を展開するリーダーシップを発揮してください。非核三原則を持つ国として、『核共有』など核への依存を強める方向ではなく、『北東アジア非核兵器地帯』構想のように核に頼らない方向へと進む議論をこそ、先導してください。そして唯一の戦争被爆国として、核兵器禁止条約に署名、批准し、核兵器のない世界を実現する推進力となることを求めます。」と式典で訴えました。日本政府も一刻も早い核兵器禁止条約への署名、批准をし、核兵器のない世界実現に向けて行けるよう力を発揮してほしいと思っています。

/// 広島原爆記念式典での子ども代表の挨拶の一部を紹介します ///

原爆投下により、たくさんの人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから77年経ちました。

今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。

戦争は、昔のことではないのです。

本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。

過去に起こったことを変えることはできません。

しかし、未来は作ることができます。

世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。

